

## 要 旨

### 日本語学習者が LINE を活用するための日本語指導のあり方

山田 朱音

現在のコミュニケーションは主に SNS で行われている。ここでは日本語学校で指導する日本語の規範とは異なった独自の日本語が使用され、それらが日本語学習者にとって理解しがたいことはいうまでもない。しかし、今日では SNS でのコミュニケーション抜きでは社会生活を営んでいくことが難しい時代になっている。もちろん、それは日本語学習者も例外ではなく、ここで使用される日本語が理解できないことで、日本語学習者が日本人の輪から疎外され断ち切られることが危惧されている。そこで本稿では、現在のコミュニケーションの特性を理解した上で、SNS で使用されている日本語とはどのようなものかを調べた。さらに、それらを体系的に整理し、実際に指導を行い妥当性を確認した。

まず、1. で本稿の目的として、日本語学習者が SNS 上において日本人の輪から疎外される可能性を述べた後、2. ではコミュニケーションの媒体の変化を概観し、それに伴って変化した現在のコミュニケーションがどのような特性であるのかを探った。続く 3. では、日本語学習者のコミュニケーションの現状を調査し、SNS で使われている日本語を指導する必要性を述べた。さらに 4. では、本稿で取り上げる LINE がどのような特性をもった SNS であるのかを紹介し、5. で LINE で実際に使われている日本語を抜き出した上で分類を行った。その後 6. で、それらを指導する計画を述べ、7. で実際に試行した指導の結果を示した。さらに 8. で、それらを「文章の親密さ」と「アチーブメントテストで初めて見られた LINE で使用されている表現」の 2 点で考察し、最後に 9. で、まとめと「語彙・表現の選択における検討と分析の必要性」、「学習者のレベルに合わせた授業計画の必要性」、「LINE で使用されている日本語の流動性に鑑みた学習者の自律性」、「指導を行うことの困難さ」の 4 点を今後の課題として述べた。